

事業報告書

2016年度（平成28年度）

2016年（平成28年）4月 1日から
2017年（平成29年）3月31日まで

滋賀県近江八幡市市井町177番地

学校法人 ヴォーリス学園

2016 年度事業報告書

当年度は、前年度（法人名変更）に続く激変の年でありました。まず、『改革案（3）』に従い、PTA、後援会の改革が具体化し、2017 年度より新体制がスタートしました。改革の基本方針は「各校園自主自立の徹底」と「高等学校の充実」であります。

PTA 改革は、高等学校、中学校、小学校それぞれの教育内容に相応する「各校自立」の PTA 活動を保障し、かつ学園全体の協力と調和を計るために連合会を設置しました。こどもセンターでは、保育園・こども園ごとに保護者会が組織され、こどもセンター保護者会連合会が置かれています。

後援会改革は、会費の大半が施設整備寄附に当てられていたことが批判されたことから、後援会費を減額し、施設整備費（校納金）を増額するという改革を行いました。この改革により、後援会は「教育を後援する会」になります。

後援会経由の施設整備寄附が無くなることに対し、寄附金税制の改善による「寄附金増」を期待し、学園の募金要項を改正しましたが、「ふるさと納税」のお土産戦略に打ち勝つことができませんでした。総合広報誌の発行は、画期的な成果を挙げました。

5 月、『改革案（3）』により小学校撤退（ソフトランディング）を表明しましたが、17 年度募集状況を見て、12 月 2 日理事会にて決断しました。報道等、大きな波紋はありましたが、関係者には、学園が半世紀にわたり抱えてきた困難（三度の廃校問題、現状）と、苦渋の決断を理解していただき、紛争を回避することができました。今後 6 年間、困難は続きますが、「最後まで良い教育を」の約束を守り、有終の美を飾りたいと思います。

当年度、新体育館（メインアリーナ）を建設し、17 年度のサブアリーナ改修工事をもって 2002 年以來の「近江兄弟社学園 21 世紀グランドデザイン」を終了することになりました（まとめ資料添付）。これに引き続き長期計画「ヴォーリズ学園フロンティアプロジェクト」につき議論を進めました。

こどもセンターでは、東近江市にそらの鳥こども園建設を進め、17 年 4 月開園にこぎつけました。こどもセンター事業が発展すれば、「100 周年（2022）を発展的に迎えよう」というスローガンも実現不可能ではない、少なくとも「現状維持」は可能であります。

I. 学校法人の概要

本学校法人はイエス・キリストを模範とし、教育基本法および学校教育法に従い、学校教育を行い、自己統制力のある自由人、独立自主の創造力に富む人、知性豊かな国際人を育成することを目的としております。

この目的を達成するために設置された本学校法人ヴォーリズ学園の2016年度における概要は、以下のとおりであります。

1. 設置する学校等

近江兄弟社高等学校 全日制課程 普通科・国際コミュニケーション科
近江兄弟社中学校
近江兄弟社小学校
近江兄弟社ひかり園
金田東保育園（本園・分園）
安土保育園（本園・分園）
もりの風こども園
安土こどもの家
守山児童クラブ室（物部・小津・玉津）

2. 建学の精神

「イエス・キリストを模範とする人間教育」

3. 沿革

- 1905年 ウィリアム・メレル・ヴォーリズ、滋賀県立商業学校英語教師となる。
商業学校生徒を対象にバイブルクラス、YMCA を組織。吉田悦蔵ら同居。
- 1907年 八幡 YMCA 会館（現アンドリュース記念館）建設。悦蔵と共同生活。悦蔵、
商業学校卒業。流暢な英語で答辞を述べた。ヴォーリズ、同校退職。八幡に留
まる。
- 1909年 大津・米原に鉄道 YMCA 設立。
- 1917年 近江ミッション所有地を開放してプレイグラウンドとする。
- 1919年 メレル・ヴォーリズ、一柳満喜子と結婚。
- 1920年 プレイグラウンドに清友園と名付け、ヴォーリズ満喜子が園長となる。
吉田悦蔵著『近江の兄弟等』出版。跋文、賀川豊彦。
- 1922年 清友園幼稚園開設。園長・ヴォーリズ満喜子。戦後、近江兄弟社幼稚園と改称。
- 1930年 ヴォーリズ、Colorado College L.L.D（名誉法学博士号）授与さる。
- 1931年 ハイド一家の寄付により幼稚園舎（現ハイド記念館）、体育館（現教育会館）
建設。
- 1933年 吉田悦蔵ら近江勤労女学校設立。35年、近江兄弟社女学校に改称。戦後、新
制中・高等学校（近江兄弟社中・高等学校）になる。近江向上学園設立（女子
従業員教育、学園長・佐藤安太郎、西村関一、吉田政次郎）。戦中、女子青年
学校、戦後、近江兄弟社高等学校定時制部、78年廃部
- 1935年 幼稚園の分園事業として大林公衆浴場二階において、大林の幼児のために保健
衛生を主とした生活訓練を開始、これを「大林子供の家」と称した。翌年、慈
恩寺町に活動場所を移し、39年から本園の幼稚園に合流。このころまでに、
米原・堅田・今津・水口幼稚園、八日市託児所、近江家政塾、八幡英語学校、

- 江西義塾、農村青年学校、清友園教育研究所等多様な教育事業展開。
- 1940年 近江兄弟社図書館開設（吉田悦蔵館長）。75年近江八幡市に移管。
- 1940年 ヴォーリス帰化、一柳米来留と名のる。第二次世界大戦始まる。
- 1942年 女学校長・吉田悦蔵召天。以後校長、高橋虔、檜山嘉蔵。
- 1942年 時局により向上学園閉鎖、近江兄弟社女子青年学校に（校長・村田幸一郎）。戦時中、一柳一家は軽井沢にて暮らす。メレルは宣教師らと教会・学校建築計画に余念なく、東京大学にも出講。満喜子は軽井沢幼稚園・啓明学園などの運営を委託される。戦後帰幡。
- 1947年～近江兄弟社小・中・高等学校・同定時制部を順次整備（一柳満喜子学園長）。
- 1950年 中高校舎建設、67年焼失。68年新校舎建設。2007年改築（現学園本館）。
- 1951年 学校法人近江兄弟社学園設立。初代理事長・一柳米来留、学園長・一柳満喜子。
- 1954年 一柳米来留理事長、藍綬褒章、58年近江八幡名誉市民、61年黄綬褒章受章。
- 1963年 一柳満喜子学園長、教育功労者として藍綬褒章受章。
- 1963年 「小中学校を廃止して高等学校の充実を計る」と発表したが、反対運動で中止。希望館建設、2010年改築（現希望館）。
- 1964年 財団法人近江兄弟社と経営分離。校名変更検討・保留。一柳米来留理事長召天。
- 1969年 一柳満喜子理事長・学園長召天。以後、**理事長**、尾崎政明、西川仲二、西村関一、山本肇、草間修二、西村与左衛門、山田眞、仁村昭司、道城献一、岩原侑、池田健夫。**学園長**、浦谷道三、尾崎政明、草間修二、大橋寛政、仁村昭司、道城献一、奥村直彦、大門義和、中島修、佐野安仁、道城献一。
- 1972年 学園創立50周年を記念して体育館建設（ヴォーリス記念体育館）。高校海外研修旅行（韓国）開始、90年より分散型に変更。
- 1974年 株式会社近江兄弟社倒産、75年より財団補助金廃止、私学助成制度開始。
- 1978年 高等学校定時制部廃止。
- 1979年 高校新校舎建設（現西館）、4学級制に対応。
- 1980年 中学校2学級制に。84年から3学級制に。
- 1983年 中高一貫コース開始、翌年、特進コース開設。93年コース制解消。
- 1988年 三輪英樹五輪出場。以後、伊藤みき、乾友紀子出場。
- 1991年 学園創立70周年を記念して新図書館棟建設（現捜信館）。
- 1992年 高校女子バレーボール部「春高バレー」に初出場。93年野球部が甲子園初出場。以後、全国大会出場クラブ多数。
- 1994年 北之庄校地取得、95年グラウンド造成（ヴォーリス記念グラウンド）。
- 1997年 文化体育交流センター建設。
- 1998年 小学校2学級制にするも2002年中断。シャロン館建設（現エクステンションセンター）
- 2000年 ハイド記念館・教育会館が有形文化財に登録される。高校新校舎建設（現東館）。6学級制に対応。
- 2001年 高校に単位制課程を設置（希望館）。05年北館建設、単位制2学級化に対応。
- 2002年 「21世紀グランドデザイン」策定。
近江兄弟社総合サービス有限会社設立（スクールバス、営繕、警備）。
- 2003年 幼稚園新園舎建設。こどもセンター設立。以後、保育園（2）、同分園（2）、認定こども園（3）、学童保育所（4）を順次開設。
- 2004年 第2次グランドデザイン。06年、第3次グランドデザイン。
- 2007年 学園本館建設、5階にヴォーリス平和礼拝堂設置。中学校4学級制に。

- 2009年 「ヴォーリズ展 in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。
- 2010年 第4次グランドデザイン。新希望館建設、ICC 発足、翌年、国際コミュニケーション科認可。武道場建設。
- 2011年 浅小井校地取得、中高体育施設・小学校舎整備。
- 2014年 小学校を浅小井校地に移転。ヴォーリズ没後50年記念行事「ヴォーリズメモリアル in 近江八幡」市民実行委員会により開催。学園は全面協力。
「ヴォーリズ建築を巡る韓国旅行」主催。
- 2015年 法人名を「学校法人ヴォーリズ学園」に変更（理事長・池田健夫、学園長・道城献一）。第5次グランドデザイン。
- 2016年 弓道場移転完成式、ヴォーリズ記念アリーナ建設。そらの鳥こども園建設。
第10回「いのちと平和の集い」開催。
近江兄弟社小学校2018年度以降児童募集停止決定。

4. 設置する学校の定員および生徒数の状況（2016年度私立学校調査等より）

校 園	定員数	生徒・児童・園児数
高等学校	1,085名	1,037名
中学校	456名	508名
小学校	432名	153名
こども園	445名	447名
保育園	270名	300名
学 童	280名	279名
合 計	2,968名	2,764名

5. 役員および教職員の概要等

①役員一覧（2016年5月1日現在）

理 事 長 池田健夫
 副理事長 藤澤俊樹
 常任理事 道城献一 小野春男 清田 剛 安川千穂
 専務理事 奥 達夫
 理 事 周防正史 山村 徹 蔭山孝夫 筈井昌彦 尾賀康裕 管井恵子
 監 事 佐藤弘明 三崎圭三
 評議員 46名

②教職員数（2016年度私立学校調査等より）

法人本部	理事長、学園長、事務長、専任職員 8					
校 園	校 長	副校長	専任教員	兼任教員	専任職員	兼任職員
高等学校	1	3	73	29	8	21
中学校	1	1	31	16	3	11
小学校	1	1	10	6	2	7
こども園	園長 2	副園長 2	66	22	2	12
保育園	園長 2				64	30
学 童					5	33

II. 各校園事業報告

1. 高等学校

少子化・「格差社会」の劇的進行や AI など高度技術の進展等、教育や私学を取り巻く情勢も多様化・複雑化し、求められる人財（材）も大きく変化しています。またグローバル化の一層の進行により、英語が話せるかどうかというレベルを超えた世界を舞台に協働できる国際人の養成が急務です。

そうした情勢を踏まえ、本校ではこの3年間、「ターゲット2017」と題する学校改革・教育改革プロジェクトを進めてきました。この改革の成否に本校の将来がかかっています。中高連携の展望づくり「フロンティアプロジェクトI」もスタートします。以下に、2016年度の到達点と課題を羅列します。

- (1) まず生徒募集においてはアーツサイエンスクラス155名、グローバルクラス143名、ヒューマンネイチャークラス（単位制）79名、国際コミュニケーションクラス34名、計411名と定員355名を上回る入学生を得た。とりわけ専願での入学生318名（推薦：117名うち学内77名）は大きな到達点。（2017年度生徒総数1,110名）
- (2) 自分の頭で考え、仲間と協働できる、こころざしを持ったリーダーの育成とそのための幅広い教養の修得を目指す「リベラルアーツ教育」を志向するクラス制度とそのカリキュラムを決定した。（ベースプログラム+コアカリキュラム+エクステンションプログラム）
- (3) 「学校目標」達成に向けた進路指導（キャリア指導）を展開し、「ヴォーリズアワー」の1年次分のシラバス・テキストを作成した。高大連携教育についても例年通り取り組んだ。個々のニーズの多様化に対応した指導・支援に課題は残る。（小論文/面接対策指導等）
- (4) 国際教育ディレクターが率先して研修し、グローバル化に対応した教育改革に取り組んだ。具体的には「イングリッシュリスニングシャワー」がスタート。他にも「コロラド研修プログラム」や「南京研修プログラム」の準備も進んだ。（いずれも2017年度から実施）
- (5) 授業改革については、各教科での取り組みに加え、「学校改革委員会」を中心に、2度、3日間の一斉公開授業に取り組んだ。7月は保護者にも公開、2月は専門家にも依頼し、ア

ドバイスを受けた。

- (6) 教員の研修は、学園での研修、中高夏期研修の他、教師会の時間帯にも取り組んだ。
- (7) 生徒会活動やクラブ活動についても、年々活発になってきているが、指導綱領や方針、ルールの見直し・策定・周知徹底が課題となる。地元ロータリークラブの支援を受けて活動する「インターアクトクラブ」などの新たな活動もスタートした。
- (8) 施設整備としてはアリーナの新築が特筆される。併せて西館の整備を実施した。今後も計画的に整備を続けながら、将来展望を策定したい。

2. 中学校

2016年度は、「新しい時代を切り拓く学び」を中学校の重点指導目標として掲げました。個人の力をつけるだけではなく、「仲間と共に学び合い」、「意見を交換し合い」、「共に問題解決にあたる」力をつけることが必要であり、これこそが「新たな学力」になると考えました。具体的には、授業規律の確立とともに、5教科を中心に生徒が生き活きと学習活動ができる Active Learning やグループ学習などに積極的に取り組み、「考える力」、「共に学ぶ力」を伸ばすとともに、プレゼンテーション能力の育成にも力を入れました。デジタル教科書の導入で、教師自らが ICT 活用能力向上のための機器の整備と授業研究を進めました。

また、英語教育・国際人教育では、複数のネイティブ教員を配置し、英語の4技能を伸ばすための授業システムを検討し、第2学年でネイティブ教員の授業を1時間から2時間に増加しました。

さらに、自主活動とりわけ生徒会を活性化することにより、生徒自らが運営する行事や広報活動を援助し、「自分たちの学校づくり」を目指すことができました。また、各クラブ活動の活動計画や活動目標を明確にし、体罰のない、安全で健康的、活動的なクラブ活動を進めてきました。運動クラブの活躍に加え、文化クラブの活躍も目立った年度でもありました。

中学校全教員による実践的なプロジェクト会議（パンフレット作成プロジェクト、成績管理システム構築プロジェクト、ICT 授業研究プロジェクト、海外研修旅行プロジェクト、教育環境整備プロジェクト）を発足し、回を重ねて意見交換をし、その成果は次年度へも引き継がれています。

募集活動では、全教職員が募集活動に積極的に携わり、自己推薦入試の更なる拡充を目指し、従来の自己推薦 A 型入試（アサーティブ：面接試験において、積極的に自分の意見や感情をはっきりと述べる入試）に加え、自己推薦 S 型入試（スタディ：熱心に学ぶ姿勢を評価する入試）を新設しました。A 型入試の希望者が90名を超えましたが、面接を繰り返して35名の合格者を出し、S 型入試両方合わせて89名の合格者となりました。一般入試も含めて156名の合格者を出しましたが、辞退者があったため2017年度入学者数は151名となりました。

3. 小学校

小学校の改革を今年こそ成し遂げ、「自主・自立」を達成するべく、スタートした2016年度でありました。

「イエス・キリストを模範とする人間教育」「知性豊かな国際人の育成」「勤勉性を培う学びとアクティブラーニングによる基礎学力の充実」を教育の三本柱として取り組みを進めてきました。

第一の「人間教育」では、聖書の教えを軸に自己肯定感を育み、命を大切にし、自ら生きる世界を愛する心を育てることをめざして宗教教育に取り組んできました。クラスでの礼拝だけに留まらず、異学年・異年齢による礼拝や全校礼

拝など形態を工夫して朝の礼拝を行いました。また、ランチや掃除や遊びなど、異学年・異年齢集団での活動を取り入れ、コミュニケーション能力を育み、隣人愛の精神を培えるようにしました。「上の学年の子どもが下の学年の子どものめんどろをよく見る。こんな学校ははじめて」という保護者の声を聞くと、ホッとします。

第二の「国際人教育」では、自国の歴史と文化をよく学ぶとともに、外国語活動に親しみ、言語や文化が異なる人々と主体的に協働していく姿勢を培うことを目標に取り組みました。5年生の短期留学は、今年度は希望者が3名に止まったため、これまでの姉妹校ベツレヘムカレッジ(ニュージーランド)ではなく、急遽フェアフィールド・インターメディアイトスクール(ニュージーランド)のホームステイプログラムにより実施することになりました。現地の学校での授業やアクティビティなどのプログラムに参加したり、ホームステイにより異国の生活を体験することができました。また、学園の留学生を小学校に招いて交流する機会を持ちました。留学生の英語を聞き、英語で質問し、学習した英語の歌などを発表するなど、実践的な英語でのコミュニケーション体験の機会を持つことができました。さらに4～6年生の英語の授業数を1.5時間に増やし、外国語活動の充実に努めました。

第三の「基礎学力の充実」では、アクティブラーニング研修を継続して実施し、その意味について理解を深め、一定の実践の方向性を見出すことができました。また、児童各自が自分の目標を定め、目標達成に向けて努力を積み重ねることができる一つの方策として各種検定の機会を設けることとし、「漢字検定」「算数検定」「英検 Jr.検定」を実施しました。

「募集定員35名を集めきる。30名以上という原則は崩せない。」という決意で取り組んだ児童募集でありましたが、A日程入試合格者15名に止まり、「2018年度以降募集停止」を決断せざるを得ない事態を招きました。その結果、B日程入試合格者3名と併せて18名の新入学予定者の内7名の方が入学許可を辞退されました。また在校生も、18名の方が転出される結果となり、全校児童111名で新年度を迎える結果となりました。

今後6年間、困難は続きますが、「最後まで良い教育を」の約束を守り、有終の美を飾りたいと思います。

4. こどもセンター

2016年度は、本年4月より開園した「認定こども園 そらの鳥こども園」(東近江市能登川地区)の運営開始に向け、保育内容検討・施設整備・園児募集・職員採用などを実施した一年であった。また、フロンティアプロジェクトⅡを立ち上げ、近江兄弟社小学校と協同し、守山、近江八幡、安土能登川地区におけるヴォーリズエデュケア事業の具体化について検討を始めた。また「ヴォーリズ学園幼児教育100年史」作成に向けて月一回定例の学習会をスタートさせた。

近江兄弟社ひかり園

「教育＝保育＝養護」の視点に立ち、0歳からの「学びの場」としてのこども園の保育内容、諸行事に重点を置いた一年であった。年度途中で転籍(短時部⇔長時部)する園児が増え、保護者の就労状況に合わせた柔軟な受け入れが可能である認定こども園の特色が具体化した年となった。

金田東保育園・分園

本園の新しい園庭を『げんき広場』と名付け、また、分園の園庭と2面を日本サッカー協会と保護者会の協力を得ながら芝生化したことにより、けがを恐れず、安心して体をいっぱい使った保育を展開した。

0歳児から5歳児までのつながりのある育ちを保証するために、違う環境にある本園・分園0歳児から2歳児の保育内容の整合性を図りながら、3歳児から5歳児の育ちに繋がる保育内容を重点的に研究した。

安土保育園・分園

本園・分園クッキングの年間計画をたて、園内の畑で栽培、収穫の食育活動が充実できた。地域交流として、ジュニアポリスの制服を身にまとい交通安全啓発、こけんとこ会さん及びこだま上豊さんとの七夕交流、安土老人クラブ連合会さんのお招きによるお芋ほり、15地域の皆様が来園し玄関にてあいさつ運動、安土地域自治区文化祭作品展示、安土中学職場体験受け入れ、安土小学校新人教諭研修受け入れ、おはなし童話クラブさんによる月1回のおはなし会、ボランティアとの連携等地域行事への参加も充実できた。

もりの風こども園

開園から6年目を迎え、研修や実践報告の機会をいただき幼保連携型認定こども園としての教育・保育の実践をまとめる一年となった。また、保護者アンケートから具体的な改善点を示し、新しい取り組みにチャレンジし教育・保育の充実に努めた。

放課後児童クラブ室（安土、物部、小津、玉津）

物部児童クラブ室、小津児童クラブ室では保育ニーズに対応すべく施設増築が10月に行われた。物部児童クラブ室では特別支援に係る空間の確保、小津児童クラブ室では受け入れ児童数を増やすことができた。安土子どもの家、玉津児童クラブ室では年々利用児童数が増えているが、今年度も柔軟に児童を受け入れることができた。

Ⅲ. 財務報告（2016年度財務状況概要）

（1）資金収支計算書

「資金収支計算書」は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対する、すべての収入・支出の内容を明らかにするものであります。

以下に、主な科目についての経年比較資料を掲示いたします。

①資金収入

（単位千円）

	2012	2013	2014	2015	2016
納付金等収入	1,129,052	1,168,037	1,176,337	1,225,643	1,165,875
手数料収入	35,481	35,732	34,649	32,151	34,345
寄付金収入	17,011	16,373	25,785	50,337	129,781
補助金収入	995,410	1,024,234	1,108,168	1,159,561	1,464,665
事業収入	79,770	146,620	161,588	99,346	108,304
雑収入	68,792	53,611	57,420	45,241	70,969
借入金等収入	0	0	39,000	147,300	883,000
前年度繰越支払資金	379,972	338,649	332,938	330,137	365,073
収入の部合計	2,721,652	2,825,139	2,939,070	3,076,148	4,667,683

②資金支出

(単位千円)

	2012	2013	2014	2015	2016
人件費支出	1,428,872	1,560,842	1,611,207	1,611,279	1,702,615
経費支出	527,401	580,243	616,220	614,434	605,785
借入金利息支出	20,195	18,274	15,356	14,154	13,404
借入金返済支出	135,402	104,728	94,991	87,948	148,918
施設関係支出	99,433	47,239	42,055	165,386	1,311,034
設備関係支出	34,192	61,647	60,038	25,366	63,098
資産運用支出	105,476	100,265	150,335	150,761	150,090
次年度繰越支払資金	338,649	332,938	330,137	365,073	607,762
支出の部合計	2,721,652	2,825,139	2,939,070	3,076,148	4,667,683

(2) 消費収支収支計算書

「消費収支計算書」は、当該会計年度における消費収支の均衡状態とその内容を明らかにし、学校法人の経営状態が健全であるかどうかを示すものです。

①消費収入

(単位千円)

	2012	2013	2014	2015	2016
学生生徒納付金	1,129,052	1,168,037	1,176,337	1,225,643	
手数料	35,481	35,732	34,649	32,151	
寄付金	21,692	22,517	27,729	51,388	
補助金	995,410	1,024,234	1,108,168	1,159,561	
事業収入	79,770	146,620	161,588	99,346	
雑収入	68,792	53,841	57,420	45,537	
帰属収入合計	2,331,877	2,453,168	2,568,560	2,615,631	
基本金組入合計	△ 389,203	△ 308,331	△ 319,051	271,319	
収入の部合計	1,942,673	2,144,836	2,249,509	2,344,312	

②消費支出

(単位千円)

	2012	2013	2014	2015	2016
人件費	1,428,674	1,560,842	1,611,207	1,611,279	
経費	778,658	837,977	884,359	875,905	
借入金等利息	20,195	18,274	15,356	14,327	
支出の部合計	2,227,997	2,418,205	2,512,206	2,527,191	
当年度消費収入超過額					
当年度消費支出超過額	285,323	273,369	262,696	182,879	
前年度繰越支出超過額	1,805,003	2,090,326	2,363,695	2,626,392	
翌年度繰越支出超過額	2,090,326	2,363,695	2,626,392	2,809,271	

備考： 2013年4月学校法人会計基準一部改正により、2016年度から消費収支計算書から事業活動収支計算書と名称および内容が変更になったため、2016年度については未記入